東北新報

毎月一回廿五日發行
輯編發行印刷人　福島縣石城郡神谷村　佐藤誠
發行所　福島縣平町仲町一六　東北新報社
廣告料一行金五十錢
一部　金十錢
一ヶ年郵税共一圓廿錢

社說

將來の日本は　其一

世界は幾年前より始まつたのかあらゆる學者に依つて述べられて居るけれども吾人は諸賢の前に其愚見をば申上げて見たいと思ふ

抑も〳〵日本と云ふ國は亞細亞の東端に位して而も豆つぶ程の少國でありながら全世界の强國と共に列席し今日では强國としては或は第一位かも知れぬ即ち第一位である故に諸外國よりは驚異を以て見られて居る而ながら全世界の諸外國が我日本國をして驚異的に見らるゝよりもむしろ大國家主義に見てもらいたいのだ

何となれば我日本國は國こそ小さくとも又物質の點から論じても當底諸外國に比べでは劣る處あるにもせよ世界に魁たるべき何物かゞ存在して全世界を統一すべき使命があらねばならぬ

それは如何なる事や余は諸賢と共に其眞想を茲に述懷せんとするものである

我大日本帝國は唯れ人が日本と名稱せしや日の本とは書いて字の如く太陽は全世界を平和に輝して居る其光こそ萬代不變の光である

其恩典に洛して萬民安らかく生存して居る其日の國即ち日本と稱せらる決して無意義にてはなく實に不可思議と云ふべく又世界の文明に比すれば我國としては少しく遲るゝ點ありと云ひどる歷史の點に至りては西歷は千九百三十二年なれども我日本の歷史は實に三千年の永き而も皇統連綿として萬世一系の天皇を載き如何なる事有るも万代不變である

げにや世界に比類なき正に何れの點にても第一位である然れども國内の亂雜は共に憂ふる所なれども其れは相互に於ていくらでも解決のつくものであるが國と國との戰となるとそれこそ我國古有の精神に立ち歸り即ち大和魂と云ふものが一つの大きな一團となつて其れこそ一濟の私情政爭等を打捨てゝ君國を守れの聲諸共に各其職責を完ふする故に此れまで如何なる戰爭があつても必ず勝利を得るゆいんである

されば諸外國は我日本國を我日本國民の精神をして如何樣に見て居るのかをも考へねばならぬけれども外國ではとても我等帝國臣民の精神等は夢にも見られぬ事が數々あるので驚異的に見らるゝも無理ではないか知れぬが其は建國の昔よりして君國主義なるが故に正に諸外國の人々とは然々相違のあるのも當然の原理である今や世界は相互に於て其權利の獲得をば各自に競ふて居る最中であるけれども其れは啻一つの大きな世界の柱となるべき支配者即ち大國家の無きゆいんでいたづらに年月を過すものゝ何れにしても全世界を支配すべき國家の出現は必ずしも其期待を裏きらずして幾年かの後には草木の風になびくが如く頗る權威ある貴國の堂々たるを示すものである諸君よ何れの國家が其使命の國なるや諸賢と共に考究する處である

此時に於て我帝國の使命は如何に全世界に於て活躍するか神武三千年の歷史はいたづらに地に落つるか太陽は全世界を無意味に輝すものでなく前述せる如く平和に輝す何ものか深き間係は我日本帝國とあらねばならぬ宇宙間の眞理は即ち我國家建設の原理なるが故に其眞理の結晶は太陽なるを以て其眞想の何たるを解するものである茲に始めて吾人の眞念を紙上を以て次號に述べ諸賢と共に我國將來の使命を層進せんとするものである　（つづく）

吉伴工業所

工場主　吉田伴吉氏

工業界として濱三郡に其人ありと知られたる老工場の聞え高き

氏の先代吉田伴吉氏は平町未開に於ける明治以前頃より鐵工業に心掛け專心以て斯業に精勵する事三十有餘年一日の如く平町を中心に各方面に向ひ鐵工業の急務なる事を進め工場の建設に盡力する事多大なり當主吉田伴吉氏は父の名を襲名業務も亦父の後を繼續大々的に工場の發展を計りし時季あだかも平、東京間に於ける汽車開通の好機を見るや同氏の活躍手腕力量を以て工場の改築に心を寄せ現に鍛治町を自宅となし當町と炭鑛方面の信用は此又多大にして其機械の製作として技術の秀才なる事は縣下に稀に見る位にて只今にては斯業界より仝氏の此後の手腕を期待されて居る

尙ほ二男を要二氏とて此又技術に熱心只今にては仝家の自動車部を預り父や兄等と力を合せ昨今にては自身にて運輸等を專任されて居るも青年ながら中々義俠心深く兄に劣らぬ信用あり故に仝氏としても精勤怠りなく殊に要二氏は細密なる技量の持主なれば自動車の修繕等も單獨にて作業する等前途有望の青年として迎ひられて居る

父伴吉氏は最近に至りては我子の共力に一路を發して現今の不況と戰ひを續けながら事業家として工業家としては其發展の偉大なる事は實に縣下にほこりて正に大斗たる事をば裏書きするものである。（一記者）

工業界用に必要とせらるゝ各種の諸機械の完備は勿論技術士としては老錬なる者を多數使用なし其れに見習生を募集して各種の技術に精勤者を養生する等五拾有餘名の多さに及ぶと云ふ

尙ほ同家として斯業に就職して實に三代目八十餘年の永きに及びしも當代に至りては事業の發達日に月に盛大を極めて居る又當主伴吉氏は實の子福者にして五男二女を有し愛妻は現代議士佐藤庄太郎氏の實姪にて旨に良才賢母の聞え高かゝりしも不幸にも先年此世を去りたれども長男常太郎氏は一昨年鐵道隊に入營今年初旬除隊後は專心家業に勤務怠りなく弟妹をいたはり能く父を援け其活動振は實に工業界の模範とも云ふべく又氏は獨身なれば各所より婚約あるも意志堅き爲め未だ無妻なれども父や弟妹には勿論世間の人々に對しては温情味深く常に工場の人員より尊敬篤く爲めに得意先の信用も亦厚く殊には前途有望の土地に目されし新川を前にせる而も（現在の工場設立所は堂の前）三百坪の土地を買收して大工場を建設し場内には手腕を期待されて居る尙ほ二男を要二氏とて此又技術に熱心只今にては仝家の自動車部を預り父や兄等と力を合せ昨今にては自身にて運輸等を專任されて居るも青年ながら中々義俠心深く兄に劣らぬ信用あり故に仝氏としても精勤怠りなく殊に要二氏は細密なる技量の持主なれば自動車の修繕等も單獨にて作業する等前途有望の青年として迎ひられて居る

父伴吉氏は最近に至りては我子の共力に一路を發して現今の不況と戰ひを續けながら事業家として工業家としては其發展の偉大なる事は實に縣下にほこりて正に大斗たる事をば裏書きするものである。（一記者）

片寄爲藏氏

新村長

氏は石城郡神谷村大字下片寄に生れ常に温情味深く幼年より忠孝の二字を深く重し青年にして兵役に在りては能く上官の命に服し爲めに昇級する事人に優れ功績も又多大なりき時宛も日露の役に際し出征特に恩典に浴せられ歸郷後は專心家業に從事せられしが村民の選ぶ處となり村役場の助役に就任する事十餘年の永き間歷代の助役を勤め其手腕實に他町村にも聞え渡りき氏は又公職を重じ能く其の私事私情を考へ決して自固の爲めに欠勤する事なく故に村民も氏の村内に盡瘁するを感謝の目を以て迎ひられしが氏は永年の就職故の水力を利用して發電所の退職を望みしも村民決して建設に心をよせてより去る氏をして退職を聞入ず遂に大正五年九月一日を以て始村長に累進するに至りて氏めて小玉川發電所計劃出願の手腕も一段と榮え此後はをなしたるも競願者の多く名村長として其力量をば他ありし爲め頗る困難を極めの村より期待されてをる たる事出願を免せられたる事數十回に及びたれども氏（一記者）の熱心力に地方の有力者且つ先輩の人々も大に同情なしたる結果遂に出願以來十二ヶ年の永き昭和三年五月十四日を以て許可と相成てより直に工事に着手工事の竣成實に出願より十四ヶ年七ヶ月にして完全たるを得今日に至りては第二の發電所も建設中なりしが氏の苦力は實に想像の外なかりき氏は又神佛の信仰に深く爲めに第一發電所々在地へ小玉川神社を設立過般來神社建設選宮式を行ひ地方の有志家且氏の今日まで盡力に預りし諸氏を招待して盛大なる祭典を行ひ石城郡の爲め本縣の爲めと益々地方の開發を計る等氏の手腕力量をば如何に活躍するかを期待されて居る。

栗原欣次郎氏

平電力株式會社々長

氏は石城郡四倉町に生れ幼少の頃より能く讀書を好み志す處ありてより東都に出で獨學の結果遂に教育家として社會に立たんと思ひ遂に青山師範へ入り卒業後は專心以て教育に身を勉勵する事十餘年氏は又常に電氣學に熱心なる事專門家も驚く位なりしが身は教育者の職責たる故に寸暇を割りては電氣學を研究なす事十有餘年各所の發電所を研學なし遂に意を決し教育家を退き歸郷後は專心電氣學に身を委せる事實に其熱烈たる事人々も驚くの外なかりき斯くする事三年五年と歲月を重ねしかば氏の資力も亦然りされど一度志を立てゝより氏の精神金石の如く地方の開發の爲に遂に小玉川の水力を利用して發電所の建設に心をよせてより去る大正五年九月一日を以て始めて小玉川發電所計劃出願をなしたるも競願者の多くありし爲め頗る困難を極めたる事出願を免せられたる事數十回に及びたれども氏の熱心力に地方の有力者且つ先輩の人々も大に同情なしたる結果遂に出願以來十二ヶ年の永き昭和三年五月十四日を以て許可と相成てより直に工事に着手工事の竣成實に出願より十四ヶ年七ヶ月にして完全たるを得今日に至りては第二の發電所も建設中なりしが氏の苦力は實に想像の外なかりき氏は又神佛の信仰に深く爲めに第一發電所々在地へ小玉川神社を設立過般來神社建設選宮式を行ひ地方の有志家且氏の今日まで盡力に預りし諸氏を招待して盛大なる祭典を行ひ石城郡の爲め本縣の爲めと益々地方の開發を計る等氏の手腕力量をば如何に活躍するかを期待されて居る。

又
釜屋商店
電話九番　九九番

改築御披露
福島縣平驛前
旅館御料理　住吉屋支店
主酒井清
電一四九番

平電力株式會社小玉川第一發電所設計概要

一、使用河川名　夏井川水係小玉川
取入口　福島縣石城郡永戸村大字下永井字銅屋場二百六十五番ノ二
放水口　福島縣石城郡赤井村大字高萩字下タ道一番地

二、使用水量
平水時　毎秒七十立方尺（一、九五立方米）
渇水時　毎秒三十三立方尺（〇、九二立方米）

三、有効落差　四百十一尺（一二四、五五米）

四、理論馬力數　三千百九十三馬力（二、三八〇「キロワット」）

五、發電出力
平水時　千八百十「キロワット」
渇水時　八百五十「キロワット」
（調整池設置ニ依リ尖頭出力三千二百「キロワット」継續時間八時間）

六、引水方法大要
前記取入口地點ニ於テ本川ヲ横斷シテ取入口堰堤ヲ築造シ其ノ左端ニ取水口ヲ設ケ以下水壓隧道總延長九二四、八九間（一、六八一、六二米）ニヨリ「サーヂング」式水槽ニ導水シ亘長一、六二三六六尺（四九二、〇三米）ノ水壓鐵管ニヨリ發電所ニ導水シ亘長三、一三間（五、六九米）ノ放水路ニヨリ本川ニ放流ス

七、水路工作物設計概要
（イ）堰堤及取水口
高サ二十九尺九寸五分（九、〇八米平水面上）總幅七十二尺（二一、八米）頂厚十二尺（三、六四米）ノ混凝土造重力式固定堰上ニ幅六米直高十二尺（三、六四米）ノ「テンダー」式可動堰參箇ヲ設ク堰堤ノ左端ニ取水口氷門除塵格子等ヲ設置ス
（ロ）調整池
上記「テンダーゲート」高サ十二尺（三、六四米）ニヨリ堰堤ノ上流ニ貯溜スル水量約二百三十四萬七千立方尺（六萬五千三百十九立方米）ヲ調整池トシテ使用ス
（ハ）水路隧道
内經五尺六寸（一、七米）ノ圓形混凝土内卷水壓隧道ニシテ「クラウチング」（隧道内卷外部間隙ニセメントモルターヲ壓力充塡施行）ヲ施シ猶土質軟弱ノ箇所ハ鐵筋ヲ挿入ス布設勾配千分ノ壹
總延長九二四、八九間（一、六八一、六二米）
（ニ）水槽
内徑二十五尺（七、五八米）深サ二十六尺一寸八分（七、九三米）ノ圓筒形混凝土造「サーヂング」式水槽
（ホ）水槽餘水路
水槽右側ニ設クル集水井ヨリ上部内徑三尺（〇、九一米）ノ鐵筋入「モルター」管二三、四間（四二、五五米）及中部幅三尺（〇、九一米）高サ四尺五寸（一、三六米）ノ混凝土暗渠三九、五間（七一、八二米）及下部六五、六間（一一九、二八米）ノ混凝土開渠ニヨリ本川ニ達ス
（ヘ）水壓鐵管　亘長一、六二三、六六尺（四九二、〇三米）（分岐管ヲ除ク）上部長サ一、〇四五尺（三一六、六七米）平均内徑四尺九寸五分（一、五米）重合式鋲綴管
下部長サ五七八、六六尺（一七五、三六米）平均内經四尺五寸六分（一、三八米）
重合式ビウ綴管
最下部鑄鋼分岐管ニヨリ内徑三尺四寸（一、〇三米）ノ鑄鐵管二條ニヨリ二基ノ水車ニ接續ス
（ト）放水路
發電所下部ハ延長八、二五間（一五米）幅十五尺（四、五五米）高サ十四尺五寸（四、四米）混凝土造暗渠ニシテ以下延長三、一三間（五、六九米）ハ幅十尺（三、〇三米）高サ八尺（二、四二米）ノ混凝土暗渠トス

八、發電所
間口七十二尺（二一、八米）奥行三十九尺（一一、八米）建坪七十八坪（二五七平方米）軒高三十尺（九、一米）鐵筋混凝土造平家建一棟ニシテ左記日立製作ニ依ル機械器具ヲ設備ス
水車三、〇〇〇馬力（全開辨）七二〇廻轉横軸「シングルスパイラル」型「リアクションタービン」二臺
發電機二、〇〇〇「キロヴオルトアムペア」六、六〇〇「ヴオルト」七二〇廻轉三相交流發電機　二臺
勵磁機二〇「キロワット」一一〇「ヴオルト」直流複捲發電機　二臺
遞降變壓器一五〇「キロヴオルトアムペア」六、六〇〇—三、三〇〇「ヴオルト」單相變壓器　三臺
配電盤七組開閉器避雷器五〇「キロヴオルトアムペア」三相誘導調整器其ノ他ノ附屬器具一切ヲ具備ス
天井走行起重機十五噸及三噸捲揚機附　一臺

九、屋外變電幷ニ送電設備日立電力株式會社「五五、〇〇〇ヴオルト」福島炭鑛株式會社「三、三〇〇ヴオルト」及ビ堰堤（取入口）可動操作用「三、三〇〇ヴオルト」電力供給ヲ爲スタメニ左ノ設備ヲ爲ス
遞昇變壓器二、〇〇〇「キロヴオルトアンペア」六、六〇〇—五、五〇〇〇「ヴオルト」單相水冷式變壓器　三臺
五五、〇〇〇「ヴオルト」用三極油入開閉器一臺、「アルミニウムセル」型避雷器一組、三極線路開閉器二組ヲ發電所屋外ニ設置ス
其ノ他前記各所ニ送電スル送電設備一切ヲ設置シタリ

一〇、福島炭鑛株式會社ニ送電ス
ビ是ニ必要ナル設備ヲ爲ス
一一、堰堤（取入口ノ所）可動堰ヲ電力ヲ以テ操作スル爲メニ發電所ト取入口間ニ電厭三、三〇〇ヴオルト用電線路幷ニ電話線路各一、四五哩ヲ設置ス
一二、取入口ニ水路番住家一棟一戸、發電所宅地に從業員社宅四棟六戸及ビ共同湯殿、便所各一棟、倉庫一棟、（總計八棟一一六、五坪）ヲ建設スルコト、シ目下其ノ準備ヲ爲シツ、アリ
一三、本社所有地取入口堰堤貯水池トシテ山林五反六畝二九歩水路番住宅地二十一坪發電所敷地三百九十坪、同從業員社宅用地三三五五坪、及ビ同地ニ接續シテ畑地山林七反八畝二十三歩アリ、此ノ外地上權設定シテ借地ニシタルモノ貯水池附近山林三反歩水路、水槽、餘水路幷ニ鐵管路用地トシテ七反七畝三歩アリ

一四、本發電所計劃出願大正五年九月一日
競願者　福島炭鑛株式會社自家用「東京山下龜三郎氏經營」
同　好間水電株式會社供給事業「福島縣二本松町田倉孝雄氏經營」
許可　昭和三年五月十八日（出願ヨリ十一年八ヶ月）
工事着手　昭和四年九月十五日（出願ヨリ十三ヶ年）
工事竣成　昭和六年四月六日（出願ヨリ十四年七ヶ月）
通水許可　昭和六年五月一一日

使用許可　昭和六年五月十七日（出願ヨリ十四年八ヶ月）
一五、本會社資本金壹百拾萬圓、株式二万二千株、株主百七十壹名　昭和六年五月十七日現在）
一六、本發電所出願ヨリ工事竣成マデノ總經費八拾貳萬餘圓
一七、本發電所發電々力料每一ヶ年間收入契約料金拾參萬四千八百七拾六圓拾六錢也
一八、本會社重役其他

取締役社長　栗原欣次郎
專務取締役　濱口巖
取締役　馬目雄次郎
取締役　野崎滿藏
取締役　端山正男
取締役　萩原申八
取締役　佐藤忠次
取締役　栗原一郎
取締役　大和田安太郎
取締役　草野七五三之助
監査役　佐藤庄太郎
監査役　酒井猶次
相談役　中野甲藏
相談役　大角金藏
相談役　濱口巖
技師長（工學士）

昭和六年五月十七日

昭和六年五月十九日ヨリ福島炭鑛送電開始　壹百八十「キロワット」
仝年仝月二十八日ヨリ日立電力株式會社ニ送電開始　八百「キロワット」
仝年六月二十八日小ヨリ田吉次氏經營ノ隅田川炭鑛ニ送電開始　參百五十「キロワット」
電力料收入一ヶ月約金壹萬五百圓也（一ヶ年金拾貳萬六千圓也）
拂込資本金參拾四萬圓也
借用金六拾七萬圓也

福島縣石城郡平町字田町六十番地
平電力株式會社
電話平二九七番

箕輪村　元村長　高萩正一

石城郡永戸村箕輪村組合長　萩野倉太

永戸村渡戸小學校　校長　赤津欣之助

夏井村大字菅波　大國魂神社々掌　山名隆貞

草野村郵便局長　新妻恭孝

草野村　坂本齒科醫院　院長　坂本惣次郎

草野村　消防組頭　吉田多喜彌

永井村小學校　校長　小玉善治

小名濱町　內科婦人科　中村醫院　院長　中村三良　電一八番

小名濱町中島　高砂理髮店內　產婆　遠藤さく

小名濱町　登記役場代書　——貨物自動車業——　小磯元藏

小名濱町　雜貨商　中野屋　店主長瀨幸利

小名濱尋常高等小學校　訓導　石井定衛

小名濱町　町會議員　立花雄七

小名濱町　女子職業學校　校長　水野ヒロ

永戸村合戸小學校　校長　根本俊治

永戸村　校長　高木德良

平町鎌田町　土木請負業　菅野勘助

澤渡村上三坂小學校　校長　猪爪福彌

澤渡村中三坂小學校　校長　蛭田三郎

澤渡村下三坂小學校　校長　川口武人

澤渡村差鹽小學校　校長　吉田正雄

永戸村合戸郵便局長　永戸村々會議員　合津音一

好間村々會議員　材木商　大平新吉

泉村大安下川　萱手鑛泉元湯　泉驛より自動車の便あり　ラヂーム鑛泉　鶴屋

小名濱町役場　町長　鈴木榮　助役　高木保　收入役　樋口速

・各炭礦御用達・　銘酒清世界醸造元　清水屋　小野晋平　小名濱村　電話六番

神谷村大字中神谷　佐藤亀次郎

神谷村大字中神谷　木村久吾

赤井村　古市喜三郎

平町三丁目
家具雜貨店
丸ほん
電三五九番

平町田町三番地
野崎自動車會社
電六五九番

平町月見町
米穀店
根本品藏
電六四六番

……轉居御披露……
貴金屬時計商
根本時計店
平町二丁目
電六〇七番

平町新田町
東北興信所
所長 赤塚彦治
電三三二番

平町三丁目
三井呉服店
七五三祝を豐富に取揃申し候——
——是非一度御來店を顧上候——

平町驛前
住吉屋セメント店
店主 酒井伴城
電六六一番

平町長橋町四七
株式、公社債、債券
高價買入所
正木昌太郎

平町一丁目
古物商
鈴木重藏

平町仲町
古市活版所
印刷は——迅速丁寧親切第一

平町驛前
旅館 **丸清**
電六〇二番

平町二丁目
尼子タクシー
主任 澤正資
電六四〇番
客本位親切第一

小名濱町
若竹
立花秀吉
電二五番

平町南町
川井内科診療所
電一八一番

小名濱町
内外科一般
佐瀨醫院
院長 佐瀨恒夫
電一三五番

小名濱町
磐城水産工業會社
電六六番・一一〇番

小名濱町
レート石鹼專賣店
寶屋藥舗
小野恭次郎

小名濱町
磐城座

小名濱町
萬雜貨卸小賣
文屋商店
電一三九番

美給新加入御照介の爲
天下に誇る黑猫の
創作リレーサービス
敢て皆樣の御ヒハンを乞ふ
TER679・平町銀座通

小名濱町
金物商
黃金屋
野口信吉
電五〇番

湯本驛前
高岡自動車部
片寄朝男
電五七番

小名濱町
內外科產婦人科
花柳病科
久保田醫院
院長 久保田眞
電二二番
——泉驛前に出張所あり——

小名濱町
旅館御料理 **新米**
電八番・七〇番

小名濱町
旅館御料理 **錦盛館**
電四番

小名濱町
有限責任 **小名濱町信用購買組合**
組合長 長瀨金右衛門

小名濱町
旅館御料理 **吉田屋**
小松力
電一四番